



チリ共和国

Republic of Chile

2008年1月現在



一般事情

- 1.面積 756,000平方キロメートル(日本の約2倍)
- 2.人口 1,645万人(2006年 世銀)
- 3.首都 サンティアゴ
- 4.民族 スペイン系75%、その他の欧州系20%、先住民系5%
- 5.言語 スペイン語
- 6.宗教 カトリック(全人口の88%)
- 8.通貨 ペソ
為替レート 1米ドル = 約530.3ペソ(2006年平均)
補助通貨単位 100センターボ = CENTAVO/S
- 9.査証(ビザ) 査証免除協定(1969年)
- 10.在留邦人数 1,152名、日系人は永住者(486人)を含め2,600人程度と推定(2007年10月現在)
- 11.在日当該国人数 約728名(2006年12月末現在) コンセント・タイプ
- 12.電源 - V - Hz
- 13.国際電話 国番号 56 国際通話コード 0
- 14.シガレット 小売価格 1.24 US\$ (20本当り)
税率 75.3%
製造数量 12,640 (百万本/年)
シガレットメーカー

Compania Chilena De Tabacos SA	BAT
Empresas CCT SA	BAT

15.略史

年月	略史
1818年	事実上の独立
1970年	アジェンデ社会主義政権誕生
1973年	クーデターによりピノチェット軍事政権誕生
1980年	新憲法草案に対する国民投票の実施
1981年	新憲法発効
1988年	ピノチェット大統領信任投票
1989年	大統領選挙、国会議員選挙
1990年	エイルウィン政権成立
1994年	フレイ政権成立
2000年	ラゴス政権成立
2006年	バチェレ政権成立

16.在外大使館・領事館

在チリ日本国大使館
Embassy of Japan in Chile
Ricardo Lyon 520, Providencia, Santiago, Chile
Tel: 02 - 232 - 1807 Fax: 02 - 232 - 1812

17.駐日大使館・領事館

なし
チリ共和国大使館
Embassy of the Republic of Chile in Japan
〒105-0014 港区芝3丁目1-14 日本生命赤羽橋ビル8階
電話: 03-3452-7561、03-3452-7562、03-3452-7585

在東京チリ共和国総領事館 管轄区域: 日本全土
Consulate-General of the Republic of Chile in Tokyo
〒105-0014 港区芝3丁目1-14 日本生命赤羽橋ビル8階
電話: 03-3452-7561

在大阪チリ共和国名誉領事館 管轄区域: 近畿
Honorary-Consulate of the Republic of Chile in Osaka
〒542-0083 大阪府大阪市中央区東心斎橋2-1-1 タカラベルモント株式会社内
電話: 06-6212-3675

在札幌チリ共和国名誉領事館 管轄区域: 北海道
Honorary Consulate of the Republic of Chile in Sapporo
〒060-0004 札幌市中央区北四条西4丁目1 加森ビル3
電話: 011-232-0639

在長崎チリ共和国名誉領事館 管轄区域: 九州
Honorary Consulate of the Republic of Chile in Nagasaki
〒857-2494 長崎県西海市大島町1605-1 株式会社大島造船所 内
電話: 0959-34-2711

政治体制・内政

- 1.政体 立憲共和制
- 2.元首 ミチェル・バチェレ・ヘリア大統領(任期4年、連続再選不可)
- 3.議会 上下両院制(上院 38名、下院 120名)
- 4.政府 (1)首相名 なし
(2)外相名 アレハンドロ・フォックスレイ・リオセコ

5.内政

1973年にクーデターを敢行し発足したピノチェット軍事政権(1974年に大統領就任)は、1988年10月の国民信任投票で敗北。

1989年末の選挙で反軍事政権諸党連合を母体にエイルウィン大統領が選出され1990年に民政移管が達成。

以後フレイ大統領、ラゴス大統領、バチェレ大統領と、4期連続して中道左派連合政権が継続。

2000年に発足したラゴス政権は、市場重視の経済政策、開かれた地域主義の外交等従来の基本政策を継続し、課題であった経済の回復、高失業率(約8%)の解決、社会格差の是正、インフラ整備、軍政時代の負の遺産の処理(憲法改正等)にとりくみ、2005年8月には大統領任期の短縮(6 4年)、任命・終身上院議員制度の廃止を含む憲法改正を行ったほか、世界経済の回復と銅価格の上昇も相俟って着実な経済成長

全般に政治体制は安定。1998年10月のピノチェット元大統領の英国での逮捕事件を契機に国内の左右両勢力の対立が一時顕在化。2000年3月の同氏の釈放・帰国により、チリでの裁判が開始されたが、同人の健康上の理由により、2002年7月、最終的に裁判は停止された。

同月、ピノチェット元大統領は、終身上院議員を辞任し、政界から引退した。こうした動きを受け、また、軍事クーデター発生から30年が経過した2003年には、軍が過去への反省と政治への非介入の姿勢を明確にしたこともあり、国民和解の進展が見られた。しかし2006年12月ピノチェット元大統領が死去し、支持者と反支持者との間で未だ国論が二分している状況が改めて露呈した。

2005年12月の大統領選挙では、いずれの候補者も有効投票の過半数を獲得できず、2006年1月にバチェレ候補(与党連合)及びピニェラ候補(野党同盟)との間で決選投票を実施。決選投票ではバチェレ候補が勝利し、同年3月に大統領に就任。チリにとっては初の女性大統領誕生となった。

外交・国防

1.外交基本方針

ラゴス政権は、前政権に引き続き、チリ経済の国際化、中南米地域における安定した外交関係の構築、平和維持及び民主主義を確保するための活動への参加を外交基本政策に掲げ、活発な外交を展開した。

特に輸出市場の安定確保・拡大を目指し、二国間の自由貿易協定の締結を推進するなど自由貿易に立脚した多角的経済外交を行った。

バチェレ政権はこれまでの経済政策とともに、国際場裡への参画強化、近隣諸国との関係強化といった方針を踏襲している。

2.軍勢力

- (1)国防予算 17億ドル
- (2)兵役 2005年より志願制
- (3)兵力 陸軍47,700人、海軍19,400人、空軍11,000人(ミリタリーバランス)

経済(単位 米ドル)

- 1.主要産業 鉱業、商業、農業、農産加工業
- 2.GNI 1,149億ドル(2006年 世銀)
- 3.一人当たりGNI 6,980ドル(2006年 世銀)
- 4.経済成長率 4.0%(2006年 チリ中銀)
- 5.物価上昇率 3.4%(2006年 チリ中銀)
- 6.失業率 7.8%(2006年 チリ中銀)
- 7.総貿易額(2006年 チリ中銀)
 - (1)輸出 581.2億ドル(前年比 43.2%増)
 - (2)輸入 384.1億ドル(前年比 17.7%増)
- 8.主要貿易品目
 - (1)輸出 銅、モリブデン、木材・チップ、サケ・マス、メタノール、果物、魚粉
 - (2)輸入 石油・石油製品、輸送機器、通信機器、金属製品、天然ガス、化学製品
- 9.主要貿易相手国
 - (1)輸出 米国、日本、中国、蘭、韓
 - (2)輸入 米国、アルゼンチン、ブラジル、中国、韓国、ペルー
- 10.通貨 ペソ
- 11.為替レート 1米ドル = 約530.3ペソ(2006年平均)
- 12.経済概況

1970年代初めに、それまでの国家主導型産業育成政策から、民間主導、開放経済へと政策を転換。その後1980年代初めの債務危機を克服し、1980年代は平均成長率6.4%という高い持続的成長を達成。

1990年代に入ってから、輸出及び投資の伸びに支えられ経済は概ね順調に拡大。

1991~1997年の平均実質経済成長率8.3%を達成するなど長期に亘る高度成長を実現。

1999年以降は、相対的に安定しているものの、アジア経済危機や世界経済の低迷を受け、チリ経済にも減速傾向が見られた。

2002年は、国際銅価格の低迷等から輸出が伸び悩み、また国内需要が冷え込み、失業率も高率で推移。しかしながら、2002年後半からは、中銀の金融緩和と政策の継続等の効果もあり、国内需要が回復。

2005年は、引き続き消費が堅調であり、また、地域・世界経済の回復、銅価格の上昇等から実質GDP成長率は5.7%を達成。

2007年第3四半期は、エネルギー価格の高騰、世界金融不安、国内大寒波による農業被害等により、予測を下回り4.4%の成長にとどまった。

経済協力(単位 億円)

1.我が国の援助実績

- (1)有償資金協力(2005年度までの累計)270.70
- (2)無償資金協力(2005年度までの累計)88.25
- (3)技術協力実績(2005年度までの累計)379.81

2.主要援助国(2005年)

- (1)独(35.2百万ドル) (2)仏(14.4百万ドル) (3)日本(10.6百万ドル)

二国間関係

1.政治関係

1897年日本チリ修好通商航海条約署名。
 従来より、経済分野を中心に友好協力関係あり。
 1992年11月、両国史上初のチリ大統領(エイルウィン)の訪日を実現。
 1996年8月には37年ぶりにわが国の総理として橋本総理が訪問。
 1997年には修好百周年を迎え、両国における記念式典の開催をはじめとする各種記念行事が実施され、フレイ大統領夫妻、常陸宮同妃両殿下の相互訪問が実現。
 最近では、2002年にサルディバル上院議長、アルベアル外相、2003年にラゴス大統領、アジェンデ下院議長が相次いで訪日。
 また、2003年には倉田参議院議長一行他がチリを訪問。
 2004年はチリがAPEC議長国を始めたことから、多くのわが国要人がチリを訪問。
 同年11月にはわが国総理としては8年ぶりとなる小泉総理のチリ公式訪問が実現。
 2007年には修好110周年を迎え、日チリ両国で様々な記念行事が開催されたほか、同年9月にはパチェレ大統領が訪日。

2.経済関係

- (1)対日貿易(2006年)
 - (イ)貿易額
 - 輸出 63.7億ドル(第2位。シェア11.0%)
 - 輸入 11.5億ドル(第9位。シェア3.0%)
 - (ロ)主要品目
 - 輸出 銅鉱(約4割)、モリブデン鉱(約2割)、さけ・ます(約1割)、豚肉(約0.5割)、ウッドチップ(約0.5割)
 - 輸入 自動車(約6割)、電気・一般機械(約2割)
- (2)我が国からの直接投資(2006年までの累計)(実績ベース)
 - 18.4億ドル(鉱業・76%、製造業、サービス業等)(投資国中第6位)
- (3)2005年11月に行われた日チリ首脳会談において、日本・チリ経済連携協定(EPA)の締結交渉の立ち上げに合意。
 2006年2月より交渉を開始し、同年9月に大筋合意。
 2007年3月に両国外相間で署名し、同年9月3日に発効。

3.文化関係

文化無償 24件、965.4百万円(2005年度まで)

4.在留邦人数

1,152名、日系人は永住者(486人)を含め2,600人程度と推定(2007年10月現在)

5.在日当該国人数

約728名(2006年12月末現在)

6.要人往来

(1)往(1959年以降)

年月	要人名
1959年	岸総理
1979年	園田外相
1981年	田中(六)通産相
1990年	遠藤要参議院議員(特派大使)
1992年	海部前総理
1993年	常陸宮同妃両殿下
1994年	中山日チ友好議連会長、田中秀征衆議院議員(特派大使)
1996年7月	斎藤参議院議長
1996年8月	橋本総理
1997年6月	亀井建設大臣
1997年9月	常陸宮同妃両殿下
2000年3月	井上裕参議院議員
2001年1月	中曽根元総理等(APPF総会)
2001年3月	荒木外務副大臣(FEALAC外相会合出席)
2002年8月	植竹外務副大臣
2003年4月	瓦力衆議院議員他(IPU総会)
2003年8月	茂木外務副大臣
	倉田参議院議長
2004年1月	中川秀直日智友好議連会長一行
2004年4月	河村文部科学大臣(APEC教育大臣会合)
2004年9月	谷垣財務大臣(APEC財務大臣会合)
2004年11月	町村外務大臣・中川昭一経産大臣(APEC閣僚会議)
	小泉総理(APEC首脳会議チリ公式訪問)
2006年3月	中川秀直衆議院議員(特派大使)

(2)来(1985年以降)

年月	要人名
----	-----

1985年	ビュッヒ大蔵相
1987年	ビュッヒ大蔵相、コンチャ経済相
1988年	ビュッヒ大蔵相
1989年	エラスリス外相(大喪の礼) セゲル蔵相、ラロンド経済相
1990年	オミナミ経済相、シルバ・シマ外相(即位の礼)
1991年	ハミルトン鉱業相
1992年	エイルウィン大統領 (シルバ・シマ外相、フォックスレイ蔵相、フィゲロア農業相同行)
1993年	シルバ・シマ外相 ポーニンゲル大統領府官房長官
1994年	エイルウィン前大統領 フレイ大統領(インスルサ外相、ガルシア経済相同行)
1995年	フレイ大統領(インスルサ外相他同行)
1996年3月	テプリスキー鉱山大臣
1996年12月	ディエス上院議長
1997年8、9月	フレイ大統領(インスルサ外相他同行)
1999年11月	バルデス外相(外賓)
2002年5月	カンボス農業相
2002年9月	サルディバル上院議長
2002年11月	アルベアル外相
2003年2月	ラゴス大統領
2003年9月	アジェンデ下院議長
2003年11月	パロス外務次官
2004年11月	パエス列国議会同盟(IPU)議長
2005年4月	エイサギレ蔵相
2005年5月	エイサギレ蔵相、カンボス農業相
2007年3月	フォックスレイ外相
2007年9月	パチェレ大統領(フォックスレイ外相、フェレイロ経済相同行)

7. 二国間条約・取極

- 1969年 査証免除協定
- 1978年 技術協力協定
- 1996年 青年海外協力隊派遣取極
- 2007年 日本・チリ経済連携協定(EPA)